

課題の明確化と伝える力

2015年度 中堅ステップアップ研修(2)
～ランクアップのための論文講座～研修成果を文字で表す～



飯能市立図書館 大橋はるか
日本図書館協会認定司書1095号

1 自己紹介


1997年～ 埼玉県立図書館
埼玉県立久喜図書館
浦和図書館

2005年～ さいたま学館
(当時、財団法人けやき文化財団)派遣

2010年～ 埼玉県立浦和図書館

2014年～ 飯能市立図書館へ派遣

■関心のある領域
地域振興と図書館・MLAK連携・図書館のPR など



2 提出論文の概要

■タイトル
「招待状」としてのメールマガジンの活用
～情報発信手段の一つとして～

第4期デジタル・ライブラリアン講習会(公共図書館コース)
修了レポート(2004年提出) 優秀賞

掲載『地域再生拠点としての公共図書館【生き残るための戦略と経営手法とは】平成16年度文部科学省補助事業デジタルライブラリーの環境整備に関する調査研究報告書』p70-72
(財団法人高度映像情報センター 2005年)

■きっかけ
「第4期デジタルライブラリアン講座」を受講。
修了レポートの提出が必須。
公共図書館のICTを使ったサービス展開に関心がある図書館員が参加し、デジタル化や図書館におけるインターネットの可能性、パスファインダーの作成等について学ぶ講座。

➡ 出会い・気づきの場 + 刺激 + 考える訓練

■内容
当時、揺籃期にあったメールマガジンを取り上げ、図書館で活用する際の効用について、**四つの視点**から考察。

スキルがほしい
ステップアップ

3 論文作成まで

問題提起・課題の把握
図書館で働きながら、気になっていること、変えたいことを言葉にする。
➡ テーマの決定

情報収集
司書の強み。
図書館、書店、インターネット等で関連の情報収集。
気にかけていると自然と関連情報が目に入ってくる。

作成
構成を決める。
目次を作る。 ➡ 中身を書いてみる。 ※参考資料等も忘れずに


業務報告等ではないため、自由!

4 課題の認識


■当時(今でも)の課題・関心

- ・図書館サービス、可能性を広く知ってもらいたい。
- ・図書館にこない人、利用したことがない人を図書館に呼びたい。
- ・同僚であるはずの、県庁職員に図書館サービスをもっと知ってほしい。
- ・クチコミの可能性。

➡ その手段の一つとしてのメールマガジン
今ならSNS?



5 きっかけとなった本



『情報検索のスキル 未知の問題をどう解くか』
中公新書(三輪真木子/著 中央公論新社 2003)

▶ 情報探しのプロセスや情報行動についての考察
「情報との遭遇」

その後の仕事の指針になる本との出会い

『行列のできるメルマガ作成入門』
(高橋浩子/著 翔泳社 2004)

▶ 「ホームページへ来てもらうための招待状である」との言葉

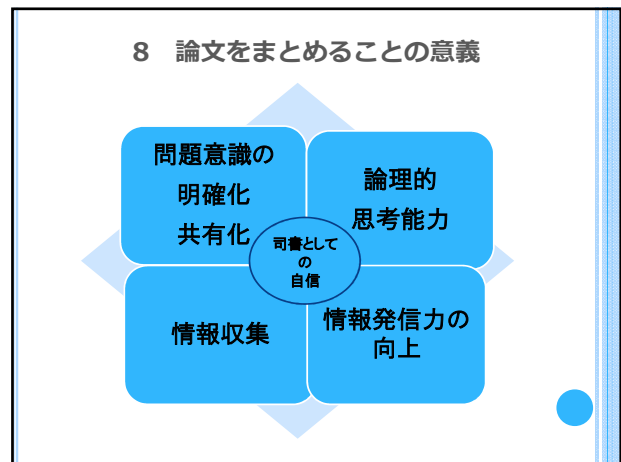
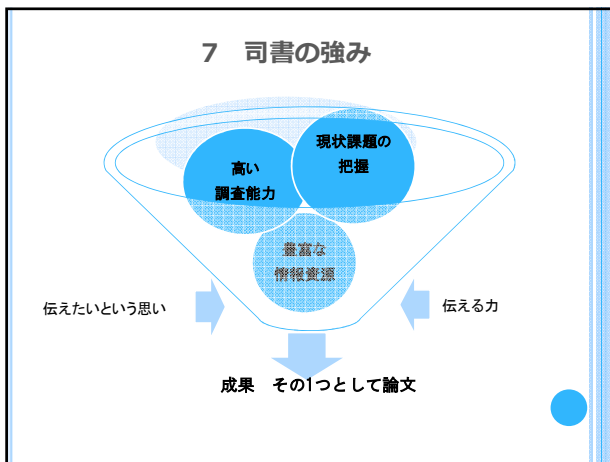
論文作成のヒント

6 作成方法

■執筆時間
自分の時間を利用。休日・帰宅後
勤務中は仕事のみ
お客様(市民・県民の方)へのサービス(そのための仕事)を優先。

■執筆場所
自宅、カフェなど
思いついたことをその場でメモ

■資料調査
近隣図書館
書店
インターネット



- ### 9 書いてみると
- 1 仕事をする上で大切な資料との出会い
 - 2 問題意識が明確化
 - 3 課題・成果を共有
 - 4 課題解決のための資料収集
 - 5 文章を書く楽しさと苦しさを体験
 - 6 文献調査の練習に

ありがとうございました

○ 飯能市立図書館・こども図書館へどうぞ来館ください!